

## 講演「中将棋セミナー」

平成 22 年 10 月 16 日（土）

名古屋大学教授

日本中将棋連盟会長 武田 穂 氏

名古屋大学の武田でございます。今日は水無瀬駒ゆかりの島本町で中将棋が少しでも指されて、これから復興されることを期待して、中将棋のお話をいたします。特に水無瀬神宮の水無瀬家に伝わる象戯図に残る将棋で現在指されているのは、今の将棋と中将棋だけだと思います。ですから、是非皆さんに中将棋を覚えていただきたいと思います。

まず、将棋の起源ということで、中将棋ってどういうものなんだろう。それから駒の動き方をご紹介したいと思います。

もともと将棋というのは、インドで始まったと言われています。インドのチャトランガが全ての起源で、東に行ったものはタイだとマークルック、中国では中国将棋、それから韓国に行ってチャンギ、日本に来て小将棋、今の将棋になります。西に行ったものがアラブ地域などでシャトランジになり、ヨーロッパに行ってチェスになる、と言われております。

チェスと同じように、日本の将棋以外は駒は全て取り捨てです。盤が小さくて駒の数が少ないと引き分けになりやすく、引き分けが多いと指すほうはつまらないで引き分けをなくす方法がいろいろと考えられてきました。一つは盤を大きくして駒数を増やすという方法で、中将棋、さらに大将棋とか大々将棋が開発されました。それから西洋の方でもチェスを大きくしたビッグチェスと言われるもののが各所で指されていた、という記録があります。

いつどのようにして日本の将棋ができたかということは、今のところはっきりとした定説はありません。資料があまりありませんので、推測で言われているケースがほとんどだと思います。

中将棋の場合ですけれども、平安将棋という将棋がありました。これは持駒が使えたのか、取り捨てだったのか不明ですが、たぶん取り捨てだったんだろうと思われています。この平安将棋『二中歴』という文献に書かれてた将棋といわれているものが、大将棋であったというふうに言われています。水無瀬家に伝わった象戯図にも大将棋がでてきております。これは  $15 \times 15$  の盤です。中将棋の駒はこの中に全部含まれます。

中将棋と大将棋はどちらが古いかというのもいくつもの説があります。今のところ大将棋が先行するという説が有力になっていると考えられています。

これは私の個人的意見ですが、チェスや中将棋のような偶数の盤と今の将棋のような奇数の盤は起源あるいは由来が違うのではないかと思います。日本の普通の将棋は  $9 \times 9$  です。タイの将棋マークルックは偶数です。 $8 \times 8$  の将棋は東南アジアから中国南部を伝わってきた将棋である。 $9 \times 9$  の将棋は中国から入ってきたんじゃないかなと、要するに起源・由来が違うのではないかと、考えております。

ただこの中将棋、室町時代にはゲームとしてほぼ完成しておりまして、お公家の間で流行しました。それ以降に特に水無瀬家などには中将棋の駒の作製依頼が来たので、中将棋の駒が水無瀬



駒として残っているのだろうと思います。ただ明治以降は、主に関西で流行していたと言われています。大山 15 世名人が書かれた文章によりますと、大山先生のお師匠さんである木見先生が中将棋を指されたので、大山先生は木見先生と中将棋を指したということが書いてあります。

中将棋の面白さについてですが、ある程度上手くなつた人同士がやると引き分けにならない。それからもう一つ、日本の将棋よりも中将棋のほうが偶数の盤や駒の取り捨て等の点で国際標準に近いということがいえます。海外のチェスのプレーヤーは中将棋を指してみようという人は結構多いです。ヨーロッパやアメリカなどではインターネットのサイトが出来ていて、そこで中将棋を指しているというようなこともあります。そして初心者でも、少し慣れればある程度のゲームにはなります。

それから、中将棋の指し方の特徴は、序盤が長い。歩をほとんどの列で前へ出していかなければいけないので、全部の歩を出すだけで十二手はかかります。次に、駒の使い方が、互いに交換することが多くなりますので、その時に、価値の低い駒で価値の高い駒を取る、そういう駒得が大事になってきます。もう一つは、盤面が広いので中将棋の場合は全面に戦いが波及するということは少ないです。また、終盤は駒がだんだんなくなつくると、飛車や角という走り駒がなくなつきます。その場合、金将などの駒を 1 マスずつ前へ出して成るということになります。そうすると又、手数がかかります。詰めるときも、通常の場合は、一枚ずつはがしていくかなかなか王手にななりません。終盤では、飛車や横行という駒は極めて重要になります。金などの小駒がきて成るのを防ぐために重要です。特に麒麟が成ると獅子になりますし、鳳凰が成ると奔王に成るので、こうした成駒ができると状況が大きく変わります。飛車や横行によって、成ることを防ぐ必要があります。もちろん醉象が成って太子ができると、王が 2 つあることになるので、これも防ぐというのが重要になります。更に進んで、駒枯れ、両方がどんどん駒がなくなつて、王将と王将プラス駒一枚になった時は駒一枚ある方が勝つとルールとしてはなっています。片方が王将プラス一枚でもう片方が王将プラス二枚なら、それは二枚の方の勝ちと考えていいのかどうかはクイズとしてやってみてもなかなか結論がでません。引き分けなどについては、これから実戦譜を基に明文化する必要があると考えています。

もし皆さんが中将棋を指したくなつたら、東京と大阪の将棋会館の道場で月一回対局会が行なわれていますので是非顔をだしてみてください。あと年二回、夏と正月にタイトル戦を開催をしております。それから海外に行かれる方がありましたら、ぜひ向こうの方と指してみられたらいいと思います。向こうの方々も日本の指し手と指すというのを楽しみにしているようです。それから、日本将棋連盟のプロの将棋指しの方々もあまり中将棋を現代では指しておられません。

10 月 31 日水無瀬神宮でプロ同士が指していただけるということなので、さぞ参考になる棋譜ができるのではないかというふうに期待しております。どうもありがとうございました。

中将棋セミナーでは、スライドを使って中将棋の駒の種類と動きについても、詳しく解説していただきました。

また、セミナーの後には中将棋の模擬対局が行われ、多くの方々に体験していただきました。